

令和 6 年度 卒業生アンケートに関する
相互評価による指導・助言の為の
自己評価報告書

令和 7(2025)年 8 月
長崎国際大学

◆卒業生アンケートの活用

視点① 学生による卒業生アンケートの実施

視点② IR 業務を担当する者による分析

視点③ 卒業生アンケート分析結果のフィードバック

1. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による卒業生アンケートの実施

卒業時に卒業生アンケートを実施して、在学期間における満足度等を調査している。アンケート集計結果は IR センターを通じて各学部・学科へフィードバックされる。その後、各部局において課題を抽出し、改善向上方策を検討して IR センターへ提出している。IR センターは各部局の報告を検討した後、自己点検・評価委員会へ報告している。卒業生の意見を大学運営により多く反映させるために、回答率は 85%以上を維持するように努めている。

実施概要は以下の通り

- 調査目的・・・本学の授業・各部署のサービス等について評価を受け、教育や学生サービス向上のための資料とする
- 調査対象・・・各年度の卒業生
- 調査日・・・令和 7 (2025) 年 1 月 10 日～令和 7 (2025) 年 3 月 9 日（卒業式翌日まで）
- 調査方法・・・回答用 URL・QR コードの manaba（学内ポートフォリオ）への掲載及び各学科の学位授与式にて回答用 QR コードの案内を配布し、WEB 方式で実施
- 回答状況・・・回答数 337 件、卒業生 382 人、回答率 88.2%

視点② IR 業務を担当する者による分析

調査実施に関しては、IR センターで設問の設定を行い、実施期間、方法等は IR センターの指示のもと各学部の協力により確実に実施している。WEB 方式で実施することによる回答率の低下は抑制され高い回答率が維持されている。令和 6 (2024) 年度調査から回答開始時期を授業終了日直後から卒業式翌日までの約 2 ヶ月間に変更した。これは、卒業式前に留学生が帰国する場合があるなど、卒業式に不参加の学生にも回答機会を確保するためである。

当該年度の集計は大学評価・IR 室で行い、その結果は二極分散型積み上げ横棒グラフで可視化している。一般的には、設問の回答構成比を割合で表示する場合には、帯グラフ（100%積み上げ棒グラフ）で示すことが多いが、この帯グラフをリッカー尺度の肯定的、否定的を左右に振り分けて、直感的に見易くした「二極分散型積み上げ横棒グラフ (Diverging Stacked Bar Chart)」を採用している。さらに過去 5 年間の満足度の割合の変化を折れ線グラフで可視化し、設問毎の経年の動向が把握できる集計としている。

視点③ 卒業生アンケート分析結果のフィードバック

上記の集計結果を各部局等において検討して課題を抽出するとともに改善向上策を策定し、IR センターへ報告している。IR センターでは各部局の報告を共有、検討後に自己点

検・評価委員会へ報告している。翌年度には、その課題の取り組み状況や改善状況を確認しており、本学の卒業生アンケートは、PDCA サイクルを循環することにより、質保証としての点検・評価、改善に資するシステムとして有効に機能している。

また、ステークホルダーや社会への説明責任を果たすため、集計結果はホームページで公開している。

2. 改善・向上方策（将来計画）

令和 6 (2024) 年度に設問の見直しを行い実施した。見直しの理由は、各回答値の選択理由を自由記述形式で記述させ、より具体的に課題を抽出できるようにするためである。また、調査した時点での短期的な満足度の調査をしていた従来の設問に加えて、より長期的な満足度に関する設問 NPS を増設した。NPS は、Net Promoter Score（ネット・プロモーター・スコア）の略で、顧客ロイヤルティ（企業やブランドに対する信頼や愛着）を測る指標で、顧客が企業やブランドをどれだけ他人に推奨するかを数値化するものである。従来の「あなたは卒業時にどの程度自分が満足しているか」という視点の設問に加えて、NPS の増設により「この大学をどの程度他の人にも薦めるか」とする視点の設問を追加し評価することとした。日本人は中間評価をつけやすい傾向にあることや NPS があくまでも回答者の感想であることから科学的根拠に乏しいとの批判もあるが、間接評価はどのような設問でも同様の可能性があることから有効性を考慮して NPS への変更を試みた。結果に関しては、現時点では単年度の数値であることから、今後数年間の結果を検証し、調査方法、設問設定の是非や改善につなげていきたいと考える。なお、各部局等においては、例年通りに前年度の改善策に対する取り組み状況と結果、本年度の調査結果に対する課題の抽出と改善策をまとめ、IR センター会議で報告し、共有した。

3. 関連資料

- (1) 令和 6 (2024) 年度卒業生アンケート設問用紙
- (2) 令和 6 (2024) 年度卒業生アンケート調査結果
- (3) 卒業生アンケートに見る課題と解決方策について（様式）
- (4) 令和 6 (2024) 年度卒業生アンケート回答のお願い（学生案内文）